

嶋満神社便り

令和七年一月号（第四十六号）
発行 嶋満神社奉賛会

皆様明けましておめでとございます。令和七年が皆様にとってラッキーセブンの年になりますよう、お祈り申し上げます。

年末年始の拝殿お飾りと撤去の際は、皆様には大変お世話になり、ありがとうございます。また沢山のおえも頂き、御礼申し上げます。



お水送り…若狭に春を告げる神事

毎年三月に奈良東大寺で行われるお水取りに使われるお水が、若狭小浜から送られていることをご存知の方も多いと思います。そのお水を送る場所が、小浜市、遠敷川上流の若狭彦神社（本誌第三十九号 令和四・十二月参照）から二キロほど遡った「鵜の瀬」という場所になります。

同じく遠敷川沿いに建つ若狭神宮寺で汲み上げられた神聖な水は、この鵜の瀬へ流されることによって地下の水脈を通じてつながっている（と言われる）奈良東大寺二月堂境内にある「若狭井」に十日かけて届きます。このお水を汲み上げるのが、「お水取り」というわけです。



その昔、東大寺創建の折、大仏開眼供養と天下の安寧を祈る「行法」が行われましたが、その際に「神名帳」により、全国の神様が呼ばれたのですが、若狭

の遠敷明神（おにゅうみょうじん）だけが漁に夢中になって遅れてしまいます。

しかし遠敷明神はその「行法」の素晴らしさに感動され、これからは毎年、この素晴らしい行法に、観音様にお供えする閑伽水（あかみず）を若狭から送ることを約束されました。

そして遠敷明神が神通力を発揮すると、二月堂の麓から白と黒の二羽の鵜が飛び出し、そこから泉が湧き出しました。この泉が「若狭井」であり、そこへお水を送る行事が「お水送り」と言われ、一三〇〇年間続いているのです。

東大寺の大仏建立の際に、八幡神を崇敬する渡来人たちのグループの鑄造技術が大いに力を発揮したことは、本誌第十六号（平成二十七・八月）に記したとおりですが



このお水送りの行事にも何かしら若狭小浜を通じた渡来人たちの古代ヤマトへの技術的、そして精神的な影響力を感じずにはいられません。

この鵜の瀬では隣接する一帯が公園になっていて、無料のお水送り資料館もあり、自由に見学することができます。

また鵜の瀬一帯は神域であることを示す立札が建てられており、「この付近一帯、若狭一宮の神域なり」と書かれています。背後の



白石神社は若狭彦神社の境外末社とされており、御祭神は若狭彦神社と同じ「彦火火出見尊」（ヒコホホデミノミコト）：神武天皇のおじい様です。

資料出典「まるっとおばま」若狭おばま公式サイト

「青々吉日」御食国食旅サイト